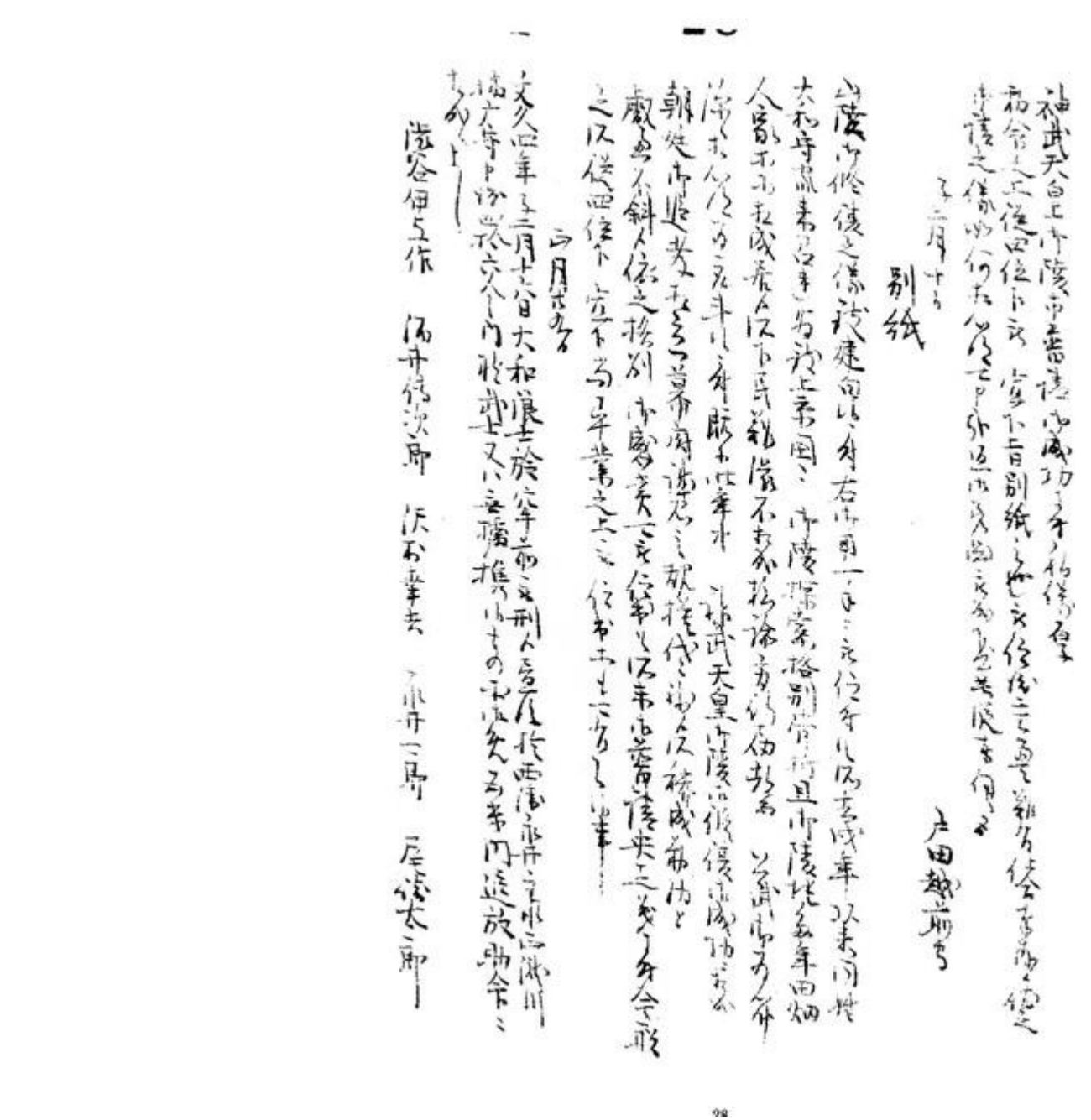


【二八頁】

（十六）山稜修復に付、差図被下度旨伺書

神武天皇御陵御普請御成功に付、私儀厚
勅命之従四位下被　宣下旨別紙之通被仰渡重畳難有仕合奉存候、依之
御請之儀如何相心得可申哉、宜御差圖被成下度此段奉伺候、以上

子二月十日　　戸田越前守

別紙

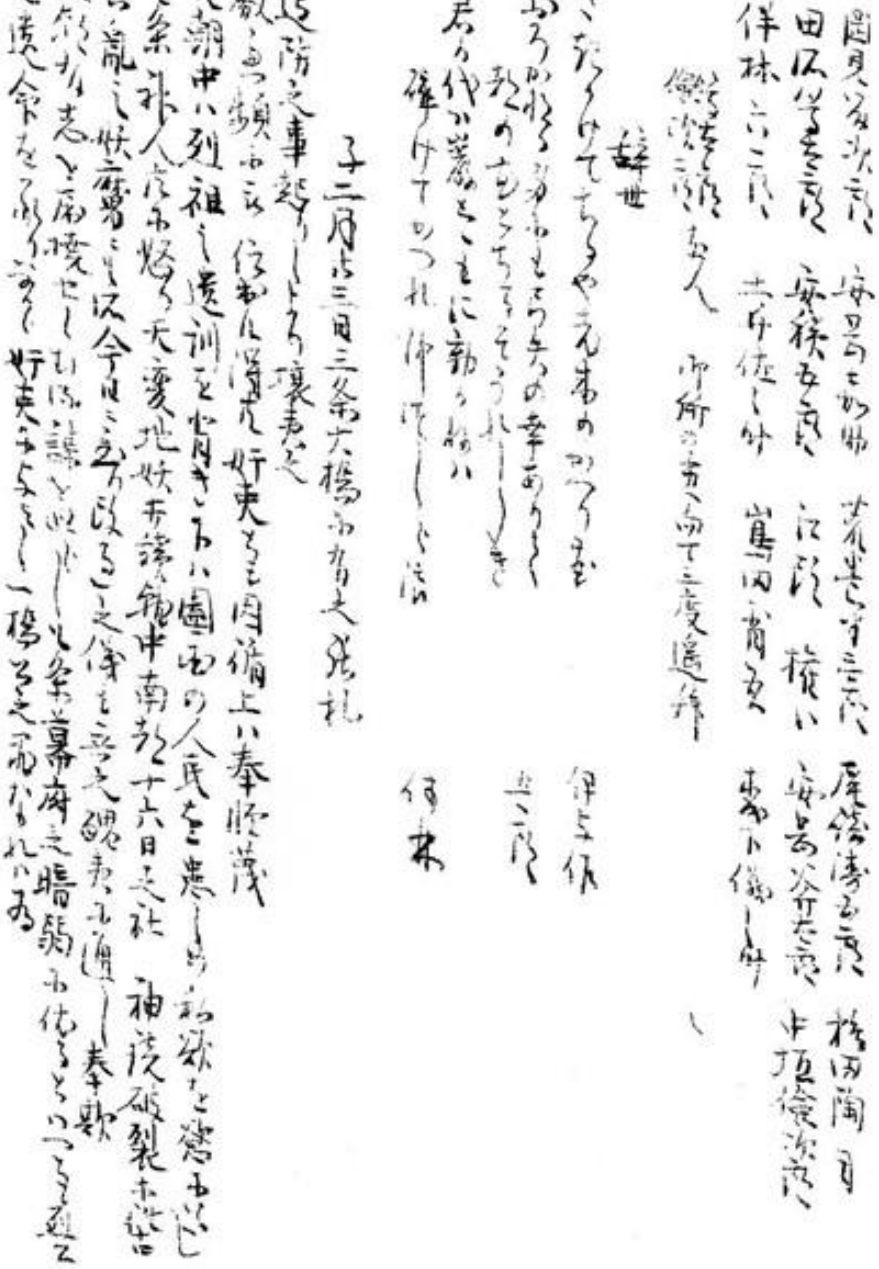
山陵御修復之儀致建白候ニ付右御用一手ニ被仰付候所、去戌年以来同姓
大和守家来召連為致上京、国々　御陵探索格別骨折、且御陵地多年田畑
人家等に相成居候所、下民難渋不相成様諭方行届、都而　公武御為筋
深く相心得為取計候ニ付既に昨年中　神武天皇御陵御修復御成功ニ相成
朝廷御追孝相立幕府誠忠之規模代々残候所、稀成勤功と
叡慮不斜候、依之格別　御感賞可被仰出候所、未御普請央之義に付今般
之所従四位下　宣下尚畢業之上被仰出等も可有之候事

正月廿九日

（十七）大和浪士処刑に際し、五畿内追放助命之者氏名書上及び辞世

一文久四年子二月十六日大和浪士於牢前被刑候昼後西衛（ママ）永井主水正・瀧川
播磨守申渡四拾六人之内、野武士又ハ無據携候もの平御免五畿内追放助命ニ
相成候よし

渋谷伊与作　酒井傳次郎　沢村幸吉　永井一郎　尾崎太郎

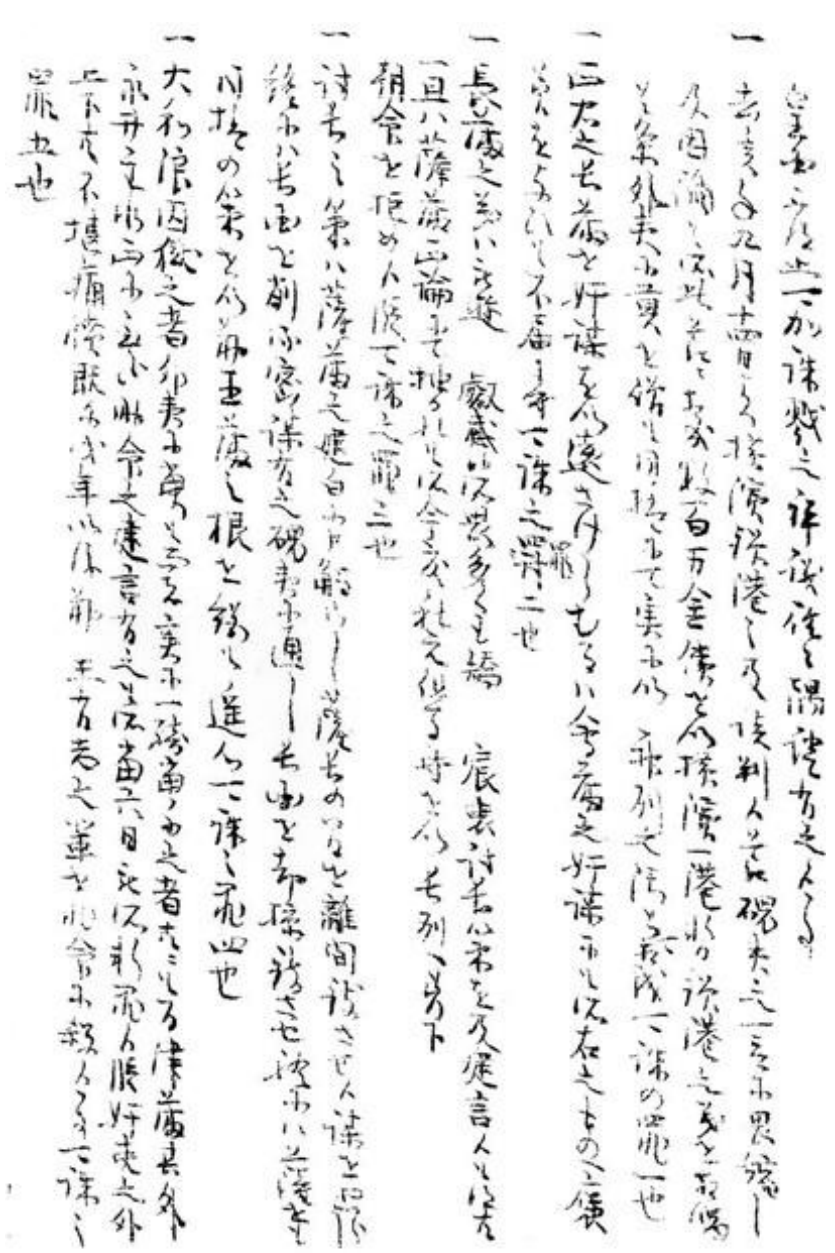


【二九頁】

岡見留次郎　安岡嘉助　荒巻半三郎　尾崎涛五郎　鵜田陶司
田所篤太郎　安積五郎　江頭権八　安岡斧太郎　中垣倹次郎
伴林六郎　土井佐之助　嶋田省吾　森下儀之助
篤太郎
倹次郎　両人　御所の方へ向て三度遥拝
辞世
さきかけて　ちるや老木の　かへり花　伊与作
おろかなる　身にも弓矢の　幸ありて　五郎
都の花と　ちるそうれしき
君か代ハ　厳とゝもに　動かねハ　伴林
砕けてかへれ　沖つしら浪

（十八）子二月廿三日三条大橋に有之張札

子二月廿三日三条大橋に有之張札
邊防之事起りしより攘夷之
叡慮頻に被　仰出候得共奸吏とも因循、上ハ奉軽蔑
天朝中ハ烈祖之遺訓を背き、下ハ闔国の人民を患しめ私欲を慾（ママ）にいたし
候条神人共に怒り天変地妖打続、就中南都十六日之社（ママ）　神鏡破裂等往古
兵亂之妖魔ニ候所、今日ニ至り改過之儀も無之、醜夷に通し奉欺
天朝、有志を屈撓セしむる謀を廻らし候条幕府之暗弱に依るといへとも、烈公
之遺命を承りながら奸吏に与ミし一橋公之罪なれハ為



【三〇頁】

皇国不得止可加誅戮之評議往々隅（ママ）證有之候事

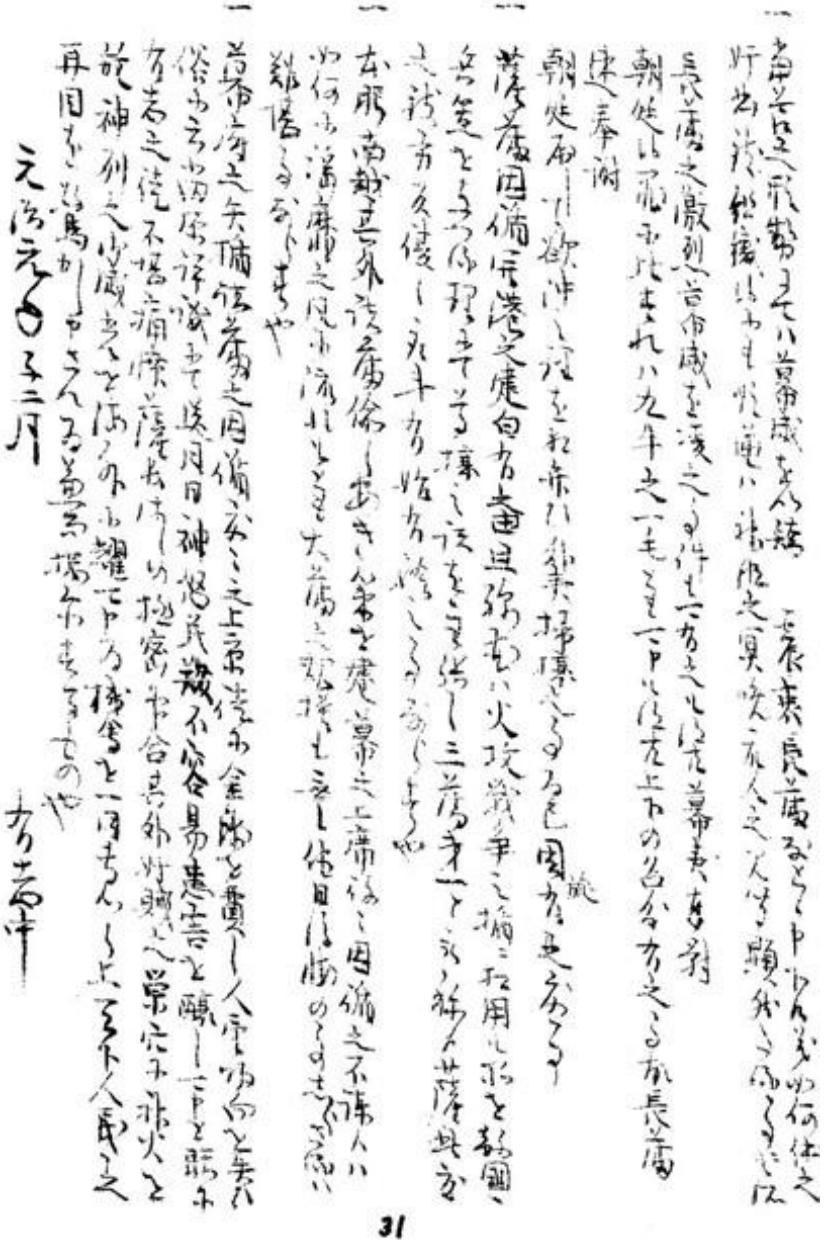
一去亥年九月十四日より横濵鎖港之及談判候節、醜夷之一言に畏縮し及因循候所、此節ニ相成数百万金償を以横浜一港暫鎖港之義を相唱候条、外夷に貢を贈候同（も欠カ）様にて実に以　神州之汚と可相成可誅の罪一也

一正忠之長藩を奸謀を以遠さけしむるハ會藩之奸謀に候所、右之ものへ褒美を与ひ候不届に付可誅之罪二也

一長藩之義ハ被遊　叡感候所畏多くも矯　宸衷討長策を及建言候候（ママ）得共一旦ハ薩藩正論にて抽かれ候所、今度秋元但馬守を以長州へ差下朝令を拒め候段可誅之罪三也

一討長之策ハ薩藩之建白に申触らし薩長の間を離間致させ候謀を廻らし終にハ長国を削る密謀有之、醜夷に通し長国を却掠（却カ）致させ終にハ薩をも同様の策を以勤王藩之根を絶候遥心可誅之罪四也

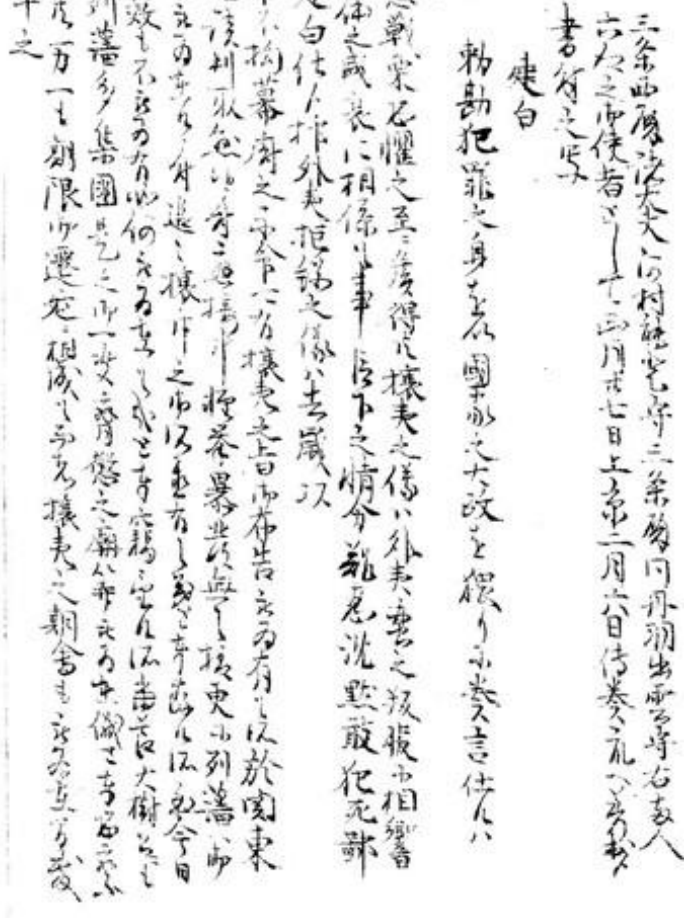
一大和浪（士欠カ）囚獄之者外夷に當り候而者実に一騎當千之者共ニ候間、津藩其外永井主水正に至迄助命之建言有之候所、當六日被所斬罪候段奸吏之外上下共不堪痛憤、既に戊（戊カ）年以後勤　王有志之輩を非命に殺候事可誅之罪五也



【三一頁】

一当節之形勢にてハ幕威を以矯　震衷（ママ）、長藩なとゝ申下候義、如何体之
奸曲致組織候にも、順逆ハ　神祖之冥晩（覧カ）衆人之見聞顕然たる事ニ候所、
長藩之激烈、幕威を凌之事件も可有之候得共、幕夷奉對
朝廷候罪に比すれハ九牛之一毛とも可申候得共、上下の名分有之事故、長藩
速奉謝
朝廷、屈して欲冲之理を相弁ひ、外夷掃攘之事而已周旋有之度事
一薩藩因循開港之建白有之由、且綿花ハ火攻戦争之楯ニ相用候品を敵國へ
兵器を与へる理にて尊攘之説を主張し三藩第一と被称候薩、此度
之致方反復之取計、有始有終之事ならすや
一本肥南越其外諸藩、偸し安き策を建、幕之上席役々因循之（ママ）不諫候ハ
如何に淫靡之風に流れ候とも、大藩之規模も無之、他日後悔の事しらさるハ
難堪事ならすや
一幕府之矢楯、諸藩之因循、度々之上京、徒に金銭を費し人望帰向をひ、
俗に云小田原評議にて送月日、神怒民叛、不容易患害を醸し可申と既に
有志之徒不堪痛憤、薩長はしめ極密に申合、其外奸賊之巣穴に神火を
放、神州之御威光を海外に燿可申為、機會を一同専心之上、天下人民之
耳目を驚かし申さん為、兼而掲尓（示）するもの也

元治元年子二月　　有志中



【三二頁】

(一九)三条西殿諸大夫河村能登守・三条殿同丹羽出雲守右両人六卿之使者として上京、伝奏衆へ差出候書付之写

三条西殿諸大夫河村能登守・三条殿同丹羽出雲守右両人
六卿之使者として正月廿七日上京、二月六日伝奏衆へ差出候
書付之写
建白
臣等　勅勘犯罪之身を以國家之大政を猥りに奏言仕候ハ
不憚
朝憲戦栗恐懼之至ニ候得共、攘夷之儀ハ外夷蛮之叛服に相響
内國体之盛衰に相係候事臣下之情分難忍、沈黙敢犯死鄙
衷建白仕候、抑外夷拒絶之儀ハ去歳以
叡命不拘幕府之示命可有攘夷之旨御布告被為有候所、於関東
鎖港談判取懸候ニ付、應接中輕挙暴發無之様更に列藩へ御
布告被為在候ニ付、追々攘斥之御所置有之義と奉存候所、至今日
御実効も不被為有如何被為在候哉と奉竊望候所、當節大樹公ニも
上洛列藩多集國是之御一決、膺懲之廟筭被為在儀と奉恐察
候得共、万一も期限御遷延ニ相成候而者攘夷之期會も被為在間敷
積年之

【三三頁】

叡慮御貫微之　且人心之方嚮も不相立、加之万民之疾苦に至り
邦内瓦解に相成候而者禍乱不可言、遂ニ夷賊之術中に陥り、振古所
無之大恥を被為受
神州腥膻之風俗共可相成と泣血悲歎仕蒙昧愚陋之身天下之重事
奉儀候者多罪之至奉恐入候得共、区々情難黙止日日
天尊言上仕候、不敬之罪御仁宥被為垂寸志之程　聖察不堪仰
願死罪ニ誠惶誠恐頓首謹言

三条西　三条　東久世
正月　季知　実美　通禧
壬生　四条　錦小路
基修　隆謌　頼徳

（二十）歎願書《八・一八政変の際脱走の次第鄙情哀訴聞届けに付》

歎願書

臣等分外知遇を蒙り莫大之鴻恩に俗候所、去年八月十八日参内他出
被止候所　勅命を違背、脱走仕候次第
朝廷之御変事を不顧
叡慮之御深志をも不奉伺、国家多難被悩
震襟候折柄、於闕下微忠をも相励可申候所、不束之進退不憚

【三四頁】

朝憲不敢之挙止　其罪不軽

宸衷之程も如何被為在候哉と恐縮仕候、猶一同鈇鉞之誅をも可蒙之所

僅官位被止候段

仁恩之厚不堪感泣候、自今攘夷之儀先年来被為在

叡慮候所、膺懲之事業難被行　震意貫徹不致儀慨歎之

至、不顧身分外夷掃攘尽微衷　聊奉慰

震襟國恩萬分之壱をも奉報度志願に可有之候所、却而嫌疑ニ

相觸奉対

天朝懐異心之風説も有之候由、鄙情貫徹不仕候段不堪悲歎罷在候所

前条之次第上京哀訴仕度存意ニ候得共、當節之身分其恐れ不少

候ニ付、以書付奉申上候　任願

聖明　仁憐を被垂候様奉願候、死罪々々頓首謹言

六卿御連名

（二十一）書翰《六卿連名歎願書の趣旨取成し依頼》

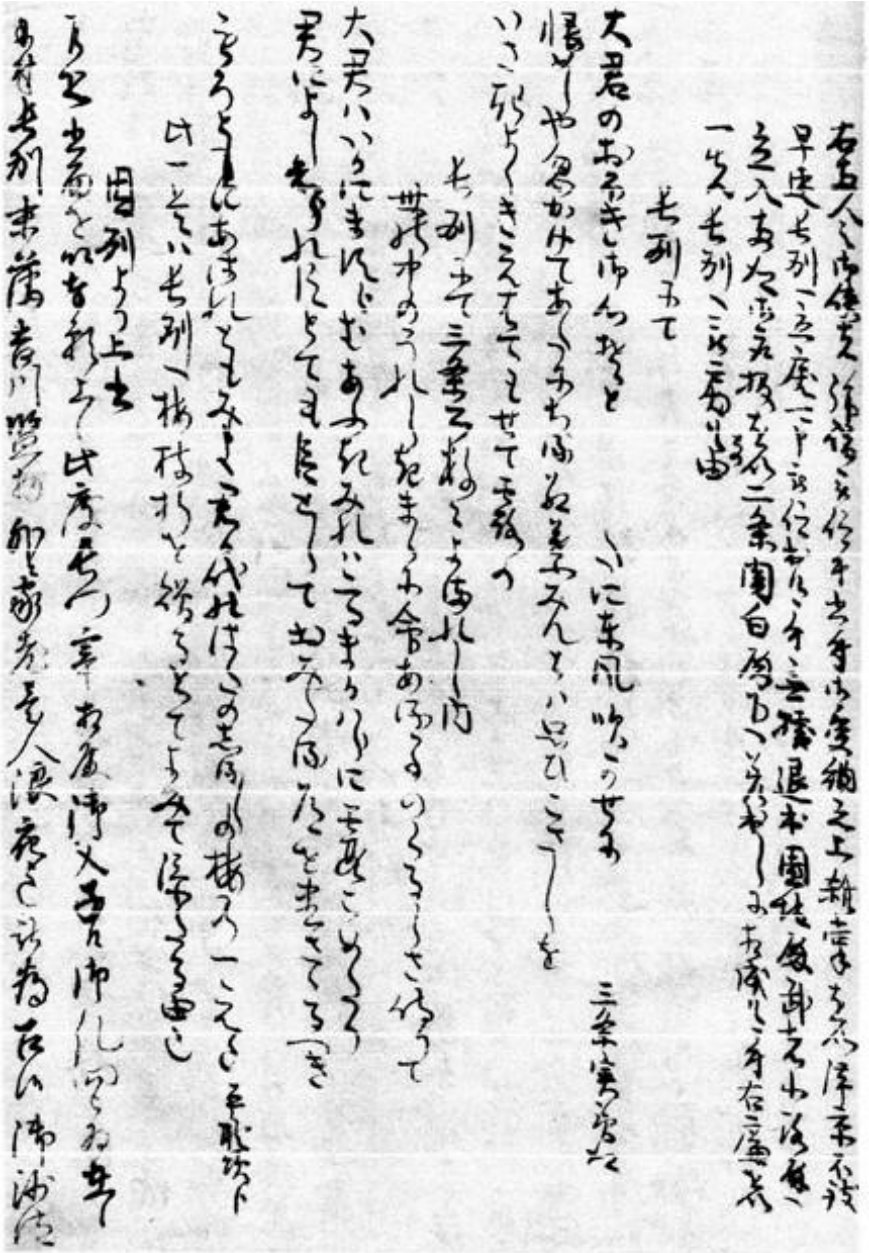
書翰

別紙差出候ニ付、可然御取成御奏達奉希候、愚情之趣委細家来を以申上

候間、拝謁被仰付御聞取終候様　伏而懇願仕候

月日　六卿御連名

□奏衆　伝奏衆



【三五頁】

右両人之御使者拝謁被仰付書付御受納之上雑掌を以、滞京不致
早速長州へ立戻可申被仰出候ニ付、無據退出園地殿・武者小路殿へ
立入両卿御取扱を以、二条関白殿下へ差出しに相成候ニ付、右廉を以
一先長州へ被戻候との由

長州にて

(二十二)三条実美長州滞在中心情を綴った和歌

大君のおほき御心そと（ママ）　たに東風吹かせに　三条実美卿

恨めしや忽かけてあたにちる紅葉みんとハ思ひこさしを

いさきよくきえはてもせて露の

長州にて三条公数々よまれし内

世の中のうれしきまゝに命ある事のくるしさ侍りて

大君ハいかにますらむあふきみれハ高まかハらに霞こめたり

君によし知られすとても臣としておみたる道を盡さゝるへき

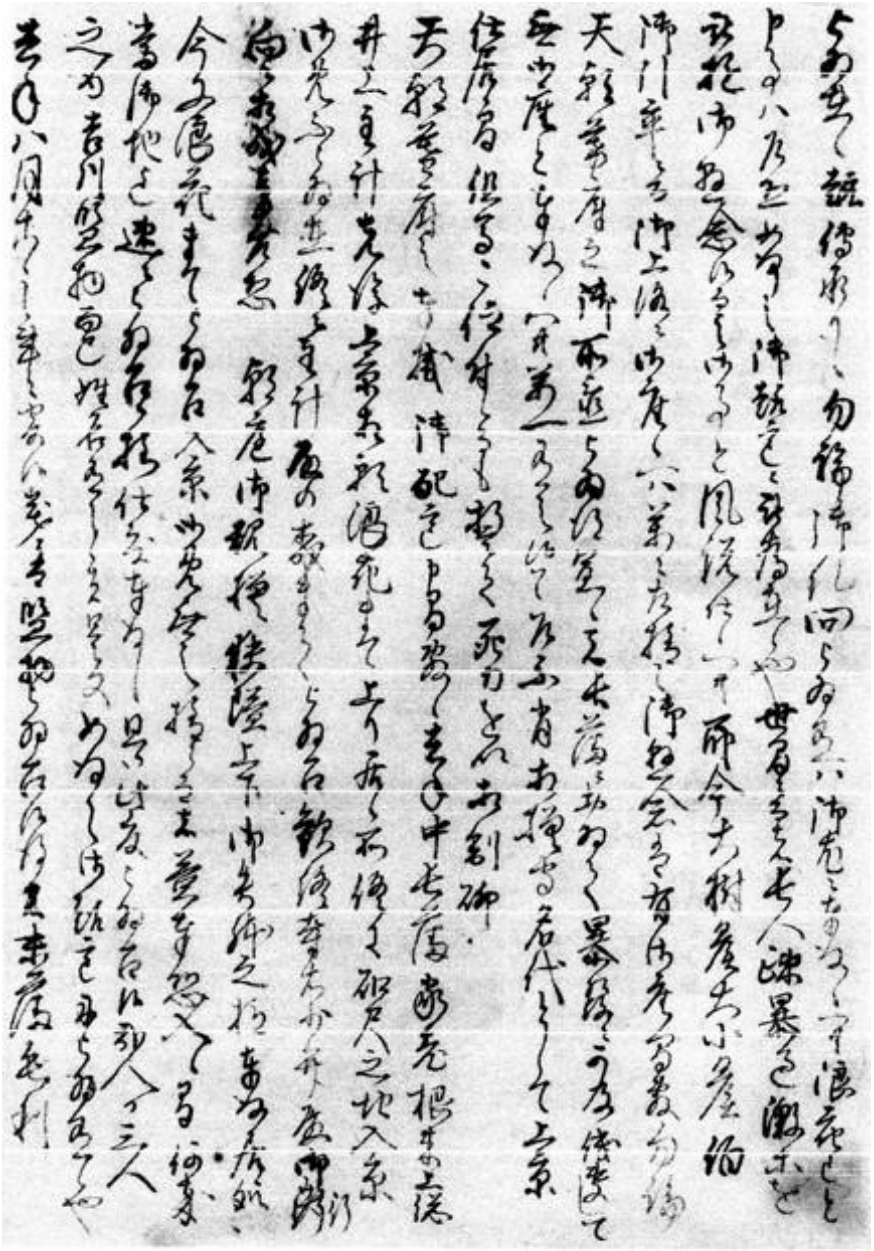
もろともにあはれともみよ君か代のはたのしるしの梅の一えた　平野次郎

此一首ハ長州へ梅枝折を贈るとてよみて添たる由也

(二十三)因州より上書

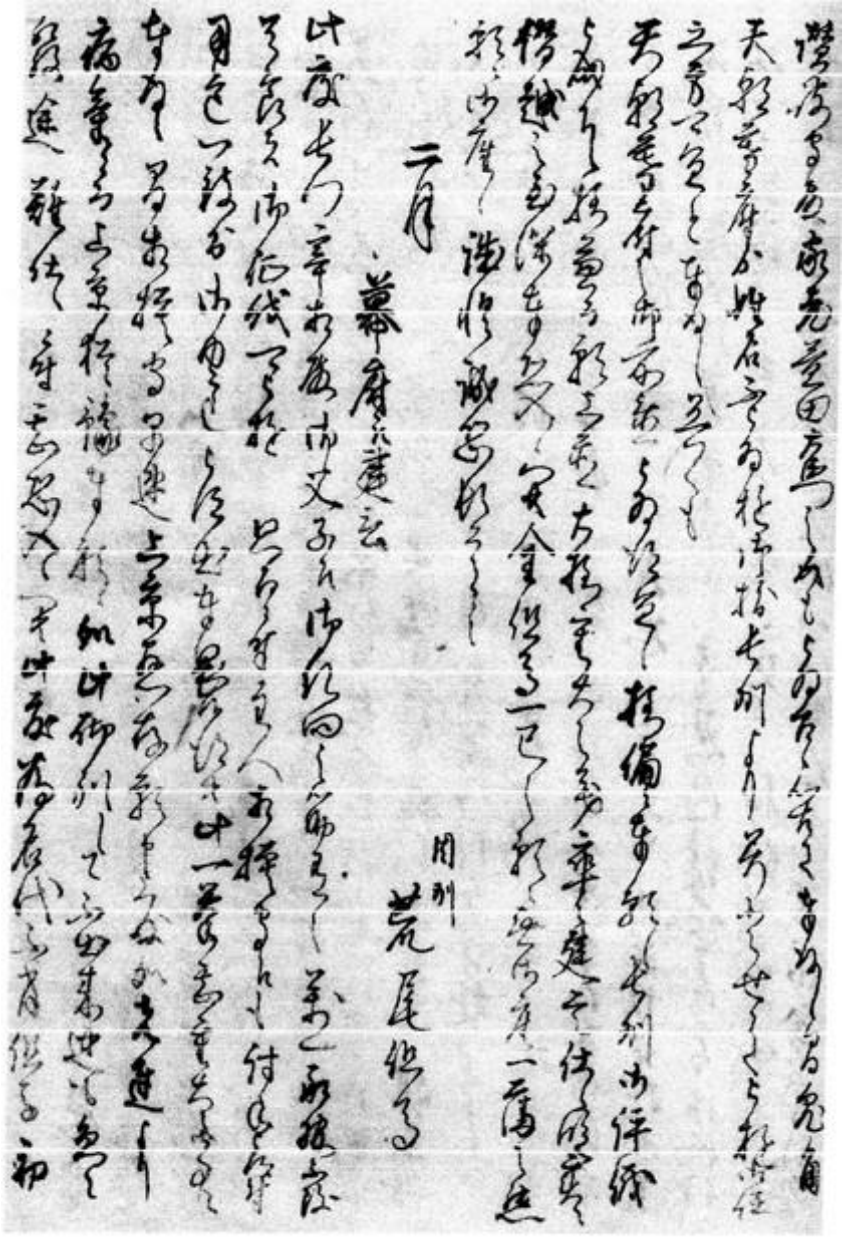
因州より上書

乍恐書面を以奉願上候、此度長門宰相侯殿御父子江御糺向問被為在候
に付、長州末藩吉川監物外ニ家老壱人浪花迄被為召候御沙汰



【三六頁】

被為在候趣傳承り候、勿論御糺問被為有ハ御尤ニ奉存候へ共浪花迄と
申事ハ乍恐如何之御趣意ニ被為在候や、世間ニ而者長人疎暴過激等を
被遊御懸念候而之御事と風説仕候へ共、即今大樹殿、大小侯伯
御引率ニ而御上洛ニ御座候へハ萬々左様之御懸念者有御座間敷、勿論
天朝・暮府之御所置被為得宜候者長藩ニおゐて暴發ニ可及儀決して
無御座と奉存候へ共、萬一有之候ハヽ乍不肖相模守名代として上京
仕居候間、但馬被仰付候而も誓て死力を以相制、聊
天朝・暮府之奉職御配意申間敷候、去年中長藩家老根来上総・
井上主計先後上京相願浪花まて上り居候所終に芝咫尺之地入京
御免不被為在、終ニ主計殿の森まて被為召、勧修寺右少弁殿御行
向ニ相成旁乍恐　朝庭御規模狭隘上下御失躰之様奉存居候処
今又浪花まて被為召入京御免無之様ニ而者益奉恐入候間何卒
當御地迄速ニ被為召候様仕度奉存候、且ツ此度被為召候弐人か三人
之内吉川監物而已姓名有之候者是又如何之御趣意に被為有候や、
去年八月十八日之事ニ寄候義ニ而監物被為召候得者末藩毛利



【三七頁】

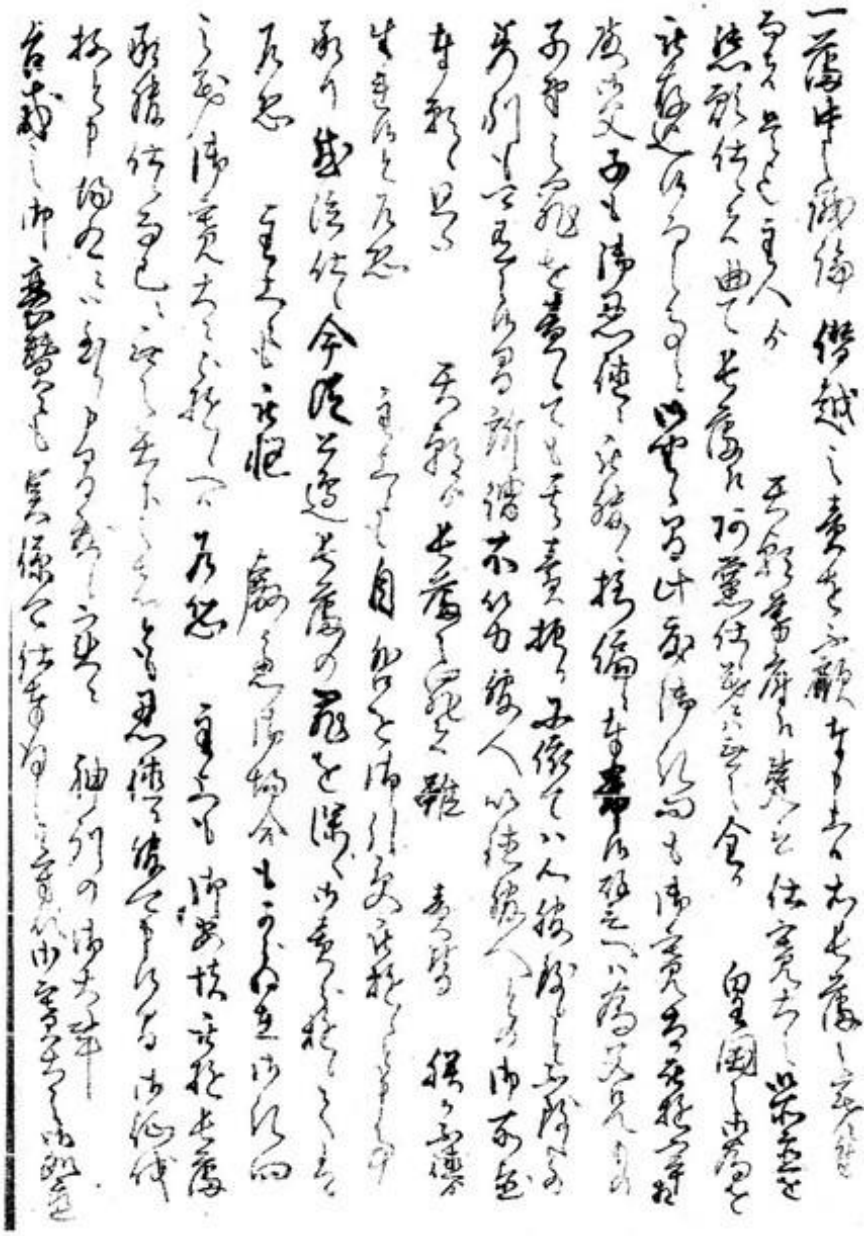
讃岐守殿家老益田右衛門之介も被為召候筈に奉存候間、兎角
天朝・幕府より姓名不被為遊御指長州より差登せて被遊御任
之方可宜と奉存候、呉々も
天朝・暮府之御所置被為得宜候様偏ニ奉願候、長州御評儀
被成下候様兼而願上置、右様重大之義卒ニ建言仕候段実ニ
僭越之至深奉恐入候へ共全但馬一己之願ニ無御座一藩之懇
願ニ御座候、誠惶誠恐頓首々々

二月　　因州　荒尾但馬

(二十四)幕府江建言

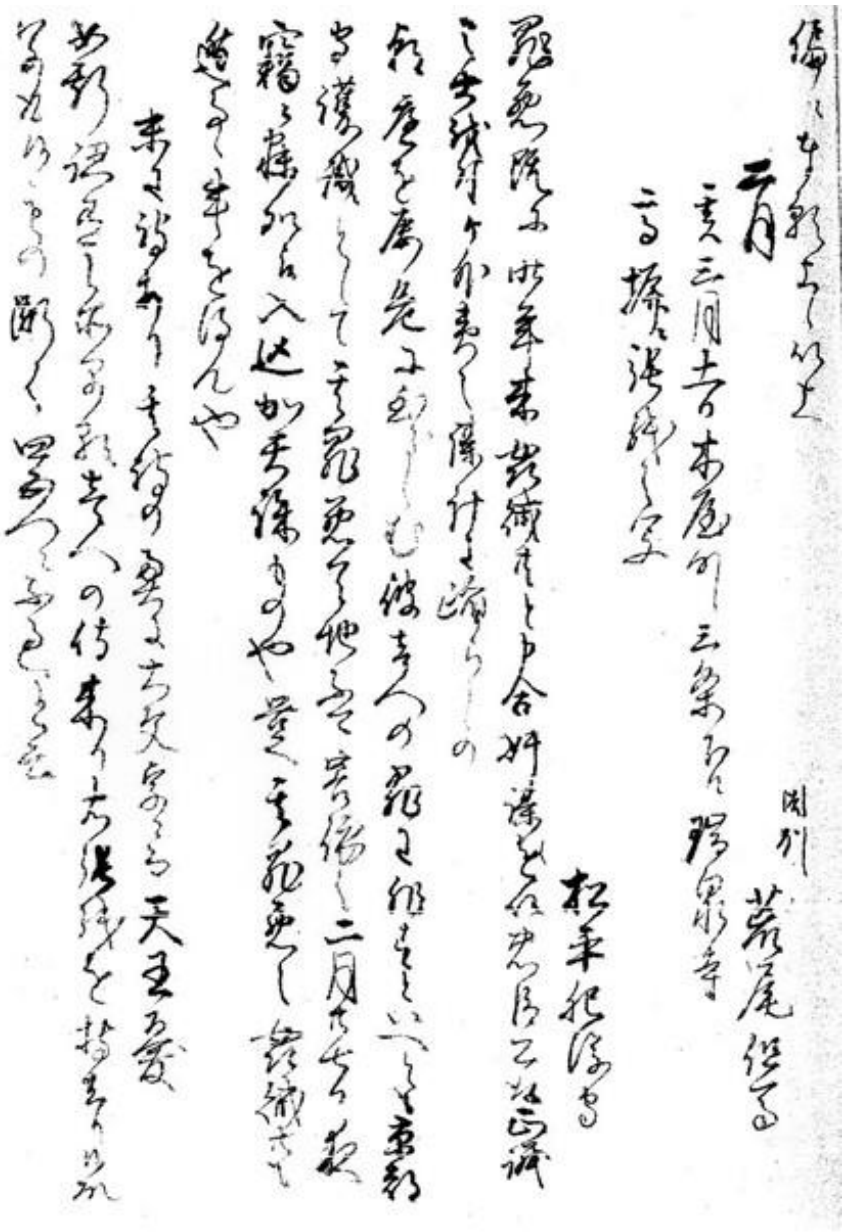
幕府江建言

此度長門宰相殿御父子江御糺向之筋有之、萬一承服不致
候節者御征伐可被遊　思召ニ付、主人相模守江も討手被仰付
用意可致旨御内意被仰出奉畏候得共此一挙甚重大之御事ニ
奉存候間、相模守早速上京恵存願申上度処、先達より
病氣ニ而上京猶予奉願候処、此砌別して不出来、迚も急々
發途難仕候ニ付、甚恐入候へ共、此度為名代不肖但馬初



【三八頁】

一藩中之議論、僭越之責を不顧奉申上候、右長藩之義ニ付
而者是迄主人より　天朝・幕府江建言仕、寛大之御所置を
懇願仕候者曲て長藩江阿黨仕候義ニハ無之、全ク　皇国之御為を
被存込候而之事ニ御坐候間、此度御糺問も御寛太被遊、宰相
殿御父子も御恩徳ニ被服候様偏ニ奉希候、譬へハ為父兄もの
子弟之罪を責候ても、其責振りに依てハ心服致候と、不致候との
差別も可有之候間、所謂不以力服人以徳服人との御所置
奉願候、且ツ　天朝ゟ長藩之罪者　雖責、皆　朕か不徳ゟ
生れ候と乍恐　主上ニも自咎を御引受被遊候と申事
承り感泣仕候、今従公邊長藩の罪を深く御責被遊候ては
乍恐　主上ニも被悩　叡慮御場合も可被為在、御糺問
之義御寛大ニ被遊候へハ、乍恐　主上も御安堵被遊、長藩
承服仕候而已ニ無之、天下之者とも恩徳ニ服可申候間、御征伐
抔と申場合ニハ至り申間敷候、実ニ　神州之御大事
台威之御衰賛（替カ）ニも関係可仕奉存候、旁以御寛大之御処置



【三九頁】

偏ニ奉願上候、以上

二月

因州

荒尾但馬

（二十五）亥三月十一日木屋町三条下ル瑞泉寺高塀ニ張紙之写

亥三月十一日木屋町三条下ル瑞泉寺

高塀ニ張紙之写

松平肥後守

罪悪既に昨年来姦賊共と申合、奸謀を以忠臣公卿正議

之士を付ケ外夷之謀計に蹈（陷カ）らしめ

朝廷を屢危に至らしむ、彼壱人の罪に非すといへとも京都

守護職として其罪悪天地不可容、依之二月廿七日夜

竊ニ寐処江入込加天誅もの也、豈其罪悪之姦賊共も

遁るゝ事を得んや

　末に詩あり其詩の奥に大文字ニ而天王憂

如斯認有之所早朝壱人の侍来り右張紙を持去り候故

写取候もの漸く四五人ニ不過と云